

## 教材活用シリーズ 第84回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント(場面・方法)などをご紹介します。

### 英語の「読む」「書く」の扉を開く 音声重視のペンマン+フォニックス

(株) 秀学社  
『E-NAVI』



みやもと なおこ  
宮本 奈緒子  
(近畿大学附属小学校 講師)

元公立中学校教諭。大阪府で13年間勤務後、私立仁川学院小学校講師を経て、現職。  
著書に『E-NAVI』『E-NAVI 2』『E-PILOT』『E-PLUS』(いずれも秀学社)。

#### 1. 英語が「読める」ということ

外国語は、文字が読めないと必要以上に難しく感じてしまうものです。公立中学校で新任だった頃、英語が苦手な生徒の多くが単語を読む段階でつまづいてしまっているということに気づきました。そこで、まずは英語を読めるようにして自信をつけさせようと、高校時代にアメリカで知ったフォニックスを授業に取り入れるようになりました。フォニックスで英語がある程度読めるようになると、英語が苦手な生徒と英語との距離は一気に縮まります。授業中突然、「うわっ、オレ、英語読めるやんけー!」と叫んだ生徒の顔を、私は二十年以上経った今

でも忘れることができません。

フォニックスは英語圏の子供が英語を読めるようになるために開発された「英語のつづりと発音の関係」をルール(法則)としてまとめたものです。アメリカの小学校では何年もかけて丁寧に教えられ、その効果も実証されています。しかし、もともと英語を母語とする子供たちのためにつくられたもので、日本でそのまま取り入れても、膨大な時間と労力を要する割にはそれほど効果を感じられない、ということになりがちです。中学校でフォニックスを教える場合は、中学生にとって必要な量と指導する方法が重要な鍵となります。

#### 2. 中学生がフォニックスを学ぶメリット

フォニックスでつづりと音の関係を理解し、実際に使えるようになると、次のような効果が得られます。

- ・ 単語を、見た瞬間に読めるようになる。(教科書を音読できるようになる。)
- ・ 知らない単語もだいたい読めるようになる。(英語の歌詞や表示などを読んでみたいという気持ちになれる。)
- ・ 単語を聞けば、音から類推してだいたいのつづりが書ける。(つづりを覚えるのが楽になる。辞書を引くのが苦でなくなる。)
- ・ 常に英語特有の音に注意が向くようになり、正しく発音しようとする意識が高まる。(リスニング力の向上にもつながる。)

中1の早い段階でこれらの力をつけておけば、その後の英語学習は生徒にとって随分と楽なものになります。そして、生徒全体の読み書きの能力が上がれば、当然授業も進めやすくなります。4月の貴重な授業時間を使ってでもフォニックスを指導される先生方が多いのは、このあたりのことを実感されているからでしょう。



H28年度改訂版  
『E-NAVI』表紙

『E-NAVI』 サイレントeを扱った p.34, 35



▲「ルールを理解」→「読める」→「書ける」のプロセスを重視

3. 『E-NAVI』の特長

限られた授業時間の中でフォニックスを教えるには、「中学生にとって何が必要か」「どのように習得させると最も効果的なのか」を見極めることが重要です。『E-NAVI』を作る際には、中学校での指導経験を活かし、使用する単語や取り上げるルール、各々のルールを習得させるまでの過程に特にこだわりました。

例えば、フォニックスでは必ず取り上げられる「サイレントe」ですが、『E-NAVI』ではいくつかの単語の共通点を見つけたところから始めて、音声と組み合わせながら徐々にルールを使った読み書きを習得していきます。

▼「サイレントe」習得までの過程

- ☆5つの単語の共通点を見つける
- ↓ルールを理解
- ↓音声を聞きながら単語を読む
- ↓音声を聞きながらつづりを選ぶ
- ↓音声を聞きながらつづりを類推
- ↓単語を書く

このような過程を経てこそ「サイレントe」が無理・無駄なく定着し、実際の読み書きに使えるようになっていきます。

最近では、フォニックスのルールをいくつか取り上げてエッセンスのみを紹介する教材も見かけますが、私の経験上、多くの生徒は知識を与えるだけでは使えるようにはなりません。また、法則のみを公式のように教え込むと、生徒が例外を受け入れにくくなってしまふので注意が必要です。私は日頃から、フォニックスは、たくさんの言葉を読む際の共通のルールに過ぎず、このルールに従って言葉ができていくわけではないので、例外は結構あるということを子供たちに伝えるようにしています。

4. 改訂のポイント

これまで15年間、英語初心者でも無理なく英語を読めるようにするための教材作りに苦心してきました。でも実のところ、フォニックスはある程度英語に馴染んでいる生徒の方が理解が早いし、効果も上がりやすいのです。その点、これからの中学生は小学校で英語の音や単語に親しんで入学してくるわけですから、『E-NAVI』をより短時間で、より効果的に使っ

て頂けることと思います。

今回の改訂にあたっては、これまで以上に小学校で指導していただいて気づいたことや学んだことを活かしました。フォニックス以外のページでは、『E-NAVI』が小学校英語から中学校英語への音声面でのスムーズな架け橋となるよう工夫し、ペンマン以降は「読める」から「書ける」への流れを重視した構成になるように心掛けました。また、クラス全体が楽しい雰囲気の中で英語学習へのモチベーションを上げていけるよう、CDのリズムや音にはかなりこだわりました。

『E-NAVI』英語の音とリズムを楽しむCHAPTER 0



▲左は色覚に問題のある生徒にも配慮した「色」を扱うページ

多くの中学生が『E-NAVI』のフォニックスで読み書きの負担を減らし、英語を好きになってくれることを心から願っています。